

## 第4回島田市観光戦略プラン策定協議会 議事概要

令和2年10月20日(火) 15:00~16:20

島田市役所 会議棟 大会議室

1. 開 会
2. 挨 拶
3. 議 事
  - (1) 島田市観光戦略プラン(案)について
  - (2) パブリック・コメントの実施について
4. その他
5. 閉 会

### I.概要

島田市観光戦略プランを策定するにあたり、必要な事項を協議するための島田市観光戦略プラン策定協議会を開催した。

今回は、島田市観光戦略プラン概要版(案)を用いて、観光戦略プランの全体像を説明し、協議会委員の皆様から意見を聴取した。いただいた意見を戦略プランに反映させて、11月中旬からパブリック・コメントを実施することを説明した。

### II.出席確認(敬称略、順不同)

策定協議会委員(高山靖子、出川恭子、小島邦夫、石久保光彦、野口翔平、塚本昭、浅井雅広、塚本一成、吉田優太、杉本真美、佐藤洋行)

オブザーバー(土屋義明、勝岡聖子)

産業観光部長 谷河

事務局(観光課長 佐藤、観光政策係長 鈴木、今村、佐藤)

### III.議題

#### (1) 島田市観光戦略プラン(案)について

- ・策定協議会委員に事前配付した「島田市観光戦略プラン概要版(案)」を用いて、各章、各節の要旨について、事務局から説明を行った。

### 【協議会委員からいただいた意見】

・数値目標は定めているか。

→ 戦略プランの KGI については、本編 42 ページ、2-3 に掲載している。観光交流客数、宿泊客数、国内認知度、観光消費額、再来訪意向、観光に対する市民意識の 6 項目を設定し、平成 30 年度を基準値に、目標値を定めている。

観光交流客数の目標値 300 万人／年は、総合計画で掲げている目標値だが、交流客数自体が増減する指標であり、大規模なイベントの有無で変動する。指標としては掲げているが、個々の観光施設を選定し、そこでの数値の変動をあわせてみていきたい。宿泊客数の目標値は、静岡県の水準に追いつくために必要な数値を設定した。そのほか、各目標値の設定根拠は 43 ページに記載している内容にて説明した。

KPI については、本編 53 ページに記載した。現状において基準値がないことから数値目標を立てていない。計画策定時には指標と計測方法を掲げておき、2 年目以降に基準値と目標値を設定していきたい。

・全国の市町村で同じ悩みを抱え、様々な取組が行われている。成功事例を視察して、事業の中に取り入れていってはいかがか。良いものは真似ていけばよいと思う。

→ 参考にさせてもらう。

・ 5 年計画を作成しているが、今年度 2020 年度は特別な年である。通信規格の 5G が導入され、地方部に広まっていくに伴い、パーソナル・モビリティが大幅に変わる。自動運転に向けた世界の協定が 2020 年度中にほとんどが成立し、2020 年から 2025 年の間に自動運転がレベル 3 まで引きあがる。そのような中、計画案は現状の社会環境に基づいて作られているが、数字を固めることは難しく、大幅な変更を余儀なくされると思う。その柔軟性を明示して加味しておいた方がよい。

成果目標の具体的な数字は重要ではあるが、一方で絵にかいた餅になる可能性が高い。激動の年のはじまりの年だからこそ、変更の可能性について言及しておいた方がよい。計画自体はとても良いものだと思う、序章の内容にも 100% 共感する。実施にあたっては利害調整を図ることや、スピード感を持ってすすめなければならないので協力させてもらう。

→ 戦略プランを策定して、5 年間変えないという考えは持っていない。必要があれば、戦略の内容、目標値、成果指標を見直すことは必要だと考える。その際には、皆様に相談しながら進めていきたい。

本編の 77 ページに推進組織について記載している。そこに、目標値を見直していくことについて、一文を加えさせていただきたい。

- ・ 現計画では、川越遺跡から蓬萊橋にかけてがメインになっている。第3章の骨子として「観光で稼ぐ地域の実現」を考えたときに、商店街に人を招き入れる取組が必要と考える。所属する組織からは、大井神社から商店街、御陣屋稲荷から大井神社への回遊することを提言しているので、計画に盛り込んでほしい。

また、食の部分が弱いと思う、島田に来たらこれを食べてほしいという一品があることが理想。当組織では、「島田さくらめし・焙炉上げ宣言」を行っていることから、さくらめしを島田市緑茶化計画とコラボさせて、特徴あるものをつくり名物としていきたいと考えており、プランに取り入れていただきたい。

- 本編 81 ページ以降に、リーディングプロジェクトのひとつとして、「川越遺跡・蓬萊橋エリア」のイメージとアイデアベースのコンテンツ例を記載した。

中心市街地との接続は必要と考えている。最も近いのは「川越遺跡・蓬萊橋エリア」だと考え、回遊策を記載しているが、表現の仕方を工夫させてもらう。食についても、当エリアが中心になると考えており、先だって開催した「和菓子バル」も、先々は中心市街地への客の誘導を見据えていることから、表現の仕方を工夫させてもらう。

- ・ 計画はセオリーに沿ったものでよいと思う。現在展開されている GOTO トラベル事業で起こっている現象に問題意識を感じている。巨額が投じられており、宿泊事業者や旅行事業者の救済が一義的にあるが、そこから広がる観光の経済効果のすそ野は広く、効果を広げる仕組みが地域共通クーポンにある。島田市観光協会が先導して、市内事業者に対して説明会出席を呼びかけてくれたが、登録事業者が広がっていない。事業者負担がなく、収入につながる可能性があるにもかかわらず、登録事業者が少なく、薬局とコンビニに偏っている。

島田市に限ったことではないが「旗ふれども、踊らず」という現象が確認できる。優れた計画をしても、実施のレスポンスが悪いことの真の原因ではないかと思う。これを解消するための事業を見出さなければならない。ここを突破すれば、一気にすすむと思う。

- GOTO トラベル事業に関しては、観光課にも情報が下りてこない。間違った情報が流れて来ることもある。静岡の事務局に連絡しても分からないといった状況にある。市議会議員や国会議員を通じて、問題提起をしたこともあった。登録事業者の呼びかけに関しては、観光協会だけでなく商工会議所、商工会とも連携を取りながら進めてきたが、結果に結びついていないことを認識している。

別の施策として、「来て Go! 島田キャンペーン」の第2弾を 11 月 11 日から計画するにあたり、国の GOTO トラベル地域共通クーポンではなく、既存の島田市金券を活用していく。島田市金券には 800 近い加盟店があるため、きっかけづくりになると考えている。

最終的には、事業者の育成や人材の育成に行きつくと考える。観光協会と市が連携して開催する地域連携交流会を年2～3回開催して、情報提供や勉強を進め、すそ野を広めていきたい。

- ・ 観光課だけではなく、商工や農林も絡むことから、行政も課を越えて連携して進めてほしい。

- ・ 概要版11ページの「川越遺跡・蓬萊橋エリア」について、市で蓬萊橋897.4茶屋を整備してくれたことで、宿泊者に対し、お茶を飲める場所を紹介できるようになった。複数のお茶を飲める場所があることは非常にありがたい。

また、宿泊者に対して、博物館や和菓子屋を紹介しているが、移動手段がないのが難点。先日、駅前のレンタサイクルを紹介したところ、好評ではあったが、自転車が老朽化しているという指摘があった。その出来事をSNSで発信したところ、長野県の大鹿村のレンタサイクル(電動自転車)が優れているとコメントがあったので、参考にしてもらいたい。

→ 11月12日にKADODE OOIGAWAがオープンする。お茶の体験コンテンツを揃えるほか、大井川流域を軸にサイクリストにも集まっていただく場になると考えている。レンタサイクルを展開したいと考えていたが、予算の関係で持ち越しになっている。観光課としても努力して、将来的には導入について考えていきたい。

- ・ 電動自転車の展開はぜひ進めてもらいたい。当社で展開するユニバーサルタクシーは収容力が高く、自転車2台は搭載できるうえ、充電も可能。タクシー業界との競業を心配する必要はない。

→ 大井川鉄道におかれても、観光協会と連携して、鉄道で千頭まで行き、自転車で大井川を下る企画を11月、12月に開催する。静岡空港では、サイクリスト対応もしている。また、ハタゴインでは、部屋に自転車を持ち込めるプランも設けられている。自転車活用に関しては、重点をおいて進めていきたい。

- ・ 那須高原はサイクリングの先進地で、タクシー業界とも連携した取組を進めている。成功事例として参考にしてほしい。島田を拠点にして大井川流域への誘客につなげていきたい。

- ・ 情報をどこから得るのが大事。情報発信の取組は非常に重要。「インフルエンサーを活用した情報の拡散」とあるがどのような方を想定するか。

→ 様々であるが、その分野で影響力を強く持っている方を招聘する方法や、地域において発信力を持っている方と連携する方法もある。一概にイメージを持っているわけではない。

- ・ 子育てに携わっている立場としては、地域には発信力のあるお母さんがたくさんいるので、ぜひ活用してほしい。コロナ禍において、有名人のインフルエンサーが発信する情報は役に立たなかった印象がある。地域のお母さんたちが発信する情報の方が、信頼性が高かった。

→ コロナ禍でマイクロツーリズムが注目を浴びている。地域の方に、地域のことを深く知り、再発見して、ファンになってもらう。そして外に向けて発信してもらうことは必要だと考える。デジタルが普及していく中で、SNS を活用して鮮度の高い情報を共有することが可能になっている。市の公式 LINE の利用登録が進んでいる。

- ・ 皆様の意見交換を聞いて島田の未来は明るいと感じた。しかし、飲食が薄いと感じる。さくらめしの普及などに行政も協力してもらえればありがたい。

## (2) パブリック・コメントの実施について

皆様からいただいた意見を戦略プランに反映させながら、11月中旬を目指してパブリック・コメントを実施していくことを説明した。可能であれば、年内に公表できるような段取りで進めていきたい。なお、修正した計画案については、パブリック・コメントに入る前に策定協議会委員の皆様と共有する。

## IV.その他

- ・「来てGO! 島田キャンペーン」の第2弾の内容について共有した。
- ・ 島田市の公式 LINE で展開した LINE クーポンの事業内容、実績状況について共有した。
- ・ 地方創生臨時交付金を活用して進める「観光商品造成事業」について、11月に開催を予定する地域事業者向けのセミナーについて共有した。詳細は改めて通知でお知らせする。

以 上